

小学校 第2学年 体育科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日 (〇) 第〇校時
 対 象 第2学年〇組〇名
 学校名 〇〇〇〇小学校
 授業者 〇〇〇〇

1 単元名 器械・器具を使つての運動遊び「跳び箱を使った運動遊び」

2 単元の目標

技 能	跳び箱を使った運動遊びを楽しく行い、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすることができるようにする。
関心・意欲・態度	運動にすすんで取り組み、決まりを守り仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

3 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びにすすんで取り組むとともに、順番や決まりを守り、仲よく運動をしようしたり、運動する場の安全に気を付けようとしていたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具を変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ・跳び箱を使った運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りができる。
学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使った運動遊びにすすんで取り組もうとしている。 ②運動の順番や決まりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③友達と協力して、跳び箱の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 ②跳び箱を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。 ③跳び箱を使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。 ②助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で腕を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることができる。 ③助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。 ④馬跳びで、両手で支持してまたぎ越すことができる。

4 指導観

(1) 単元観

ア 一般的特性

- ・跳び箱を使った運動遊びは、非日常的な運動遊びであるため、跳び箱という障害物を踏み越したり、跳び越したりすることそのものが楽しい運動遊びである。
- ・いろいろな動き方に挑戦し、できないことができるようになったり、上手になったりすることが楽しい運動遊びである。
- ・楽しく遊ぶことができるように遊び方を工夫し、友達と仲よく運動することが楽しい運動遊びである。

イ 児童から見た特性

- ・できるようになると楽しさが一段と増し、次の遊びへの意欲につながる運動遊びである。
- ・友達の動きをまねしたり、動き方を工夫したりする中で、自分の体を思いどおりに動かすことができたとき、楽しさや喜びを味わうことのできる運動遊びである。
- ・友達と仲よく運動できたり、動きができるようになったりしたときに楽しさや喜びを感じる運動遊びである。
- ・高さのある障害物を越える経験の少ない児童にとっては、不安感や恐怖感をもちやすい運動遊びである。
- ・日常生活の運動とは異なった非日常的な運動遊びである。

(2) 教材観

本単元は、いろいろな動きに楽しく取り組み、自分の力にふさわしい動きを身に付けたときに喜びを味わうことのできる運動遊びである。運動経験の差などを考慮し、片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすること、両足で踏み切って跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、そこから腕を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることを楽しみながらできるようにすることが学習のねらいである。

児童一人一人が楽しみながら跳び箱を使った運動遊びの学習ができるよう、準備や片付けの仕方を安全にスムーズに行うことや決まりを守って遊ぶことに十分配慮して行っていく。

また、運動をしていると、自分ではよい動きをしているかどうか分からない。そのため、友達同士互いの動きを見合えるように立ち位置や順番などを決め、互いの動きを見合い、伝え合う時間を設定する。学習形態の工夫や、振り返りでの教師による価値付けをすることで、児童が友達のよい動きを積極的に見付けたり、自分の動きに取り入れたりできるようになっていくと考える。

5 年間指導計画における位置付け（第1学年及び第2学年の指導計画） ○数字：時数

(1) 第1学年の指導計画 ○数字：時数

月	4月	5月	6月	7月
領域・単元・時数	【体づくり運動】 体ほぐしの運動② 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び④ 【器械・器具を使った運動遊び】 固定施設を使った運動遊び③	【体づくり運動】 多様な動きをつくる運動遊び⑤ 【ゲーム】 鬼遊び⑤	【ゲーム】 ボール遊び④ 【器械・器具を使った運動遊び】 マットを使った運動遊び⑥ 【表現リズム遊び】 リズム遊び④ 【水遊び】 水に慣れる遊び、浮く・もぐる遊び⑧	

月	9月	10月	11月	12月	
領域・単元・時数	【水遊び】 水に慣れる遊び 浮く・もぐる遊び② 【表現リズム遊び】 表現遊び リズム遊び⑥ 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び⑤	【器械・器具を使った運動遊び】 鉄棒を使った運動遊び⑤ 【体づくり運動】 多様な動きをつくる運動遊び④ 【ゲーム】 ボール遊び ボール投げゲーム⑥	【器械・器具を使った運動遊び】 固定施設を使った運動遊び③ 【走・跳の運動遊び】 跳の運動遊び④		

月	1月	2月	3月
領域・単元・時数	【走・跳の運動遊び】 跳の運動遊び④ 【体づくり運動】 多様な動きをつくる 運動遊び⑤	【器械・器具を 使ったの運動遊び】 跳び箱を使った運動 遊び⑥ 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び④	【ゲーム】 ボール蹴りゲーム⑦

(2) 第2学年の指導計画 ○数字：時数

月	4月	5月	6月	7月
領域・単元・時数	【体づくり運動】 体ほぐしの運動② 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び④ 【器械・器具を 使ったの運動遊び】 固定施設を使った 運動遊び③	【体づくり運動】 多様な動きをつくる 運動遊び⑤ 【ゲーム】 鬼遊び⑤	【ゲーム】 ボール遊び④ 【器械・器具を使ったの運動遊び】 マットを使った運動遊び④ 【表現リズム遊び】 リズム遊び④ 【水遊び】 水に慣れる遊び、浮く・もぐる遊び⑧	

月	9月	10月	11月	12月
領域・単元・時数	【水遊び】 水に慣れる遊び 浮く・もぐる遊び② 【表現リズム遊び】 表現遊び リズム遊び⑥ 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び⑤	【器械・器具を使ったの運動遊び】 鉄棒を使った運動遊び⑤ 【体づくり運動】 多様な動きをつくる運動遊び④ 【ゲーム】 ボール遊び ボール投げゲーム⑥	【器械・器具を使ったの運動遊び】 固定施設を使った運動遊び③ 【走・跳の運動遊び】 跳の運動遊び④	

月	1月	2月	3月
領域・単元・時数	【走・跳の運動遊び】 跳の運動遊び④ 【体づくり運動】 多様な動きをつくる 運動遊び⑤ 【ゲーム】 ボール投げゲーム④	【器械・器具を 使ったの運動遊び】 跳び箱を使った運動 遊び⑥ 【走・跳の運動遊び】 走の運動遊び④	【ゲーム】 ボール蹴りゲーム⑧

6 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

	学習内容・学習活動・ めあて	学習活動に即した具体的な評価規準 (評価方法)		
		運動への 関心・意欲・ 態度	運動に ついての 思考・判断	運動の技能
第1時	1 学習内容の確認 ○跳び箱やマットの運び方 ○場の準備の仕方 ○跳び箱運動遊びの約束 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">安全に気を付けながら、楽しく遊ぼう。</div> 2 準備運動 3 主運動につながる動きを身に付ける時間 ・かえるの足うち ・動物歩き ・うさぎ跳び ・馬跳び 4 場の準備 5 知る時間（踏み越し跳び） 6 整理運動 7 場の片付け 8 振り返り	アー④ 運動をする 場や用具の 使い方など の安全に気 を付けよう としている。 （観察）	イー① 跳び箱を 使った運動 遊びの行い 方を知って いる。 （観察）	
第2時	1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">両手を着いてまたぎ乗ったり、またぎ下りたりして遊ぼう。</div> 2 準備運動 3 主運動につながる動きを身に付ける時間 4 場の準備 5 知る時間（支持でのまたぎ乗り・またぎ下り） 6 取り組む時間（ローテーション） ・踏み越し跳び ・支持でのまたぎ乗り・またぎ下り 7 整理運動 8 場の片付け 9 振り返り	アー③ 友達と協力 して、跳び箱 の準備や片 付けをしよう としている。 （観察）		ウー② 助走から両 足で踏み切 り、跳び箱に 両手を着い てまたぎ 乗ったり、ま たいだ姿勢 で腕を支点 に体重を移 動させてま たぎ下りた りすること ができる。 （観察）
第3時	1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">両足で跳び乗ったり、跳び下りたりして遊ぼう。</div> 2 準備運動 3 主運動につながる動きを身に付ける時間 4 場の準備 5 知る時間（支持での跳び乗り・跳び下り） 6 取り組む時間（ローテーション） ・支持でのまたぎ乗り・またぎ下り ・支持での跳び乗り・跳び下り 7 整理運動 8 場の片付け 9 振り返り			ウー③ 助走から両 足で踏み切 り、跳び箱に 両手を着い て両足で跳 び乗ったり、 ジャンプし て跳び下り たりすること ができる。 （観察）

第4時	1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 決まりを守って、友達と仲よく遊ぼう。 </div> 2 準備運動 3 主運動につながる動きを身に付ける時間 4 場の準備 5 取り組む時間（ローテーション） ・踏み越し跳び ・支持でのまたぎ乗り・またぎ下り ・支持での跳び乗り・跳び下り 6 整理運動 7 場の片付け 8 振り返り	ア－② 運動の順番や決まりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。（観察）		ウ－① 片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。（観察）
第5時（本時）	1 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> （第5時）友達のよい動きを見付けよう。 （第6時）楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んで、遊ぼう。 </div> 2 準備運動 3 主運動につながる動きを身に付ける時間 4 場の準備 5 取り組む時間①（選択） ・踏み越し跳び ・支持でのまたぎ乗り・またぎ下り ・支持での跳び乗り・跳び下り	ア－① 跳び箱を使った運動遊びにすすんで取り組もうとしている。（観察）	イ－③ 跳び箱を使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けている。（観察・学習カード）	
第6時	6 振り返り 7 取り組む時間②（選択） 8 整理運動 9 場の片付け 10 振り返り		イ－② 跳び箱を使って、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいく。（観察・学習カード）	ウ－④ 馬跳びで、両手で支持してまたぎ越すことができる。（観察）

7 指導に当たって

単元を通して、器械運動につながる基本的な動きや感覚を夢中になって取り組んでいるうちに、自然と身に付けられるようにしていくことが必要である。また、いろいろな動きに楽しく取り組むだけでなく、友達と協力して準備や片付けを行ったり、友達のよい動きを見付け、伝え合ったりすることも運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことである。児童が「楽しそう」「やってみたい」と思うようなテーマや場の設定、いろいろな動きを選択できるようにするための掲示資料の提示、「できる」喜びを友達と共有したり、認めてもらえたりするような時間の設定をすることで、児童に跳び箱を使った運動遊びの楽しさや喜びを十分に味わわせることができると考え、以下の手だてを講じる。

(1) 単元計画の工夫

本単元は、「主運動につながる動きを身に付ける時間」「知る時間」「取り組む時間」で構成している。「主運動につながる動きを身に付ける時間」を毎時間行うように帯で取り、繰り返し取り組むことで、短い時間では身に付けることが難しい動きや器械運動につながる基本的な動きを身に付けることができると考えた。

「知る時間」では、跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、生活班などを基にした3人（4人）一組のグループを編成し、教師が示範する動きに取り組む。「示範する動き」とは、小学校学習指導要領解説体育編に例示された動きのことを指し、全部の場で共通する動きのポイントのうち、安全面に配慮する観点から「踏み切り」「着手」「着地」の仕方を押さえて取り組ませるようにする。場に応じた片足や両足での踏み切りの仕方、手のひらをパーの形にした着手、膝を曲げて3秒間静止する着地の三つを押さえる。

「取り組む時間」では、ローテーション方式と選択方式の二つの方式で行う。単元前半（第2

時から第4時)はローテーション方式で行い、単元後半(第5時、第6時)は選択方式で行う。

ローテーション方式は、知る時間に取り組んだ動きを基に、それぞれの場に提示された遊び方の中から児童が自由に選択して取り組む方式である。知る時間同様、3人(4人)一組のグループを編成し取り組む。

選択方式は、児童がローテーションで取り組んだ場の中から二つの場を自由に選択し、取り組む方式である。選択した場で繰り返し運動遊びに取り組めるよう、事前に場の選択をさせ、教師が場ごとに人数調整をする。人数を前半と後半に分け、決められた時間内は繰り返し取り組ませることで、互いの動きを見合うこともできるように配慮する。人数に偏りが出た場合には、場を増減し対応する。

(2) 見合いの仕方の工夫

生活班などを基にした3人(4人)一組のグループ編成を基本とする。運動遊びをする際には、互いの動きを見合いながら学習を進められるように児童の立ち位置を定める。友達と見合う活動では、友達のよい動きを見付けて声を掛け合うように助言をする。振り返り際には、友達のよい動きを紹介し合い、友達の動きを見ることのよさも児童に価値付けていく。さらに、第3学年からの器械運動につながる動きをしている児童を見付けて称賛し、全体の前で試技をさせるなど、意図的によい動きも全体に広めていく。

(3) 学習資料の工夫

児童が取り組む運動遊びの場で、いろいろな遊び方を選択できるように掲示資料を作成する。掲示資料では、基になる動きをイラストで示し、選択肢となる言葉を、吹き出しを活用して提示する。振り返りでの発表や学習カードの記述から、遊び方を工夫していたり、こつを見付けたりしている場合は、掲示資料に追加で記入し、より一層児童が楽しめるようにしていく。

1単位時間の振り返りでは、学習カードを用いた個人の振り返りを行う。学習カードには、学習のめあてに対する自己評価ができる項目と、友達のよい動きや自分が選んだ場で遊んだ遊び方について、文章で記入できる欄を設けるようにする。

8 本 時 (全6時間中の第5時間目)

(1) 本時の目標

- (態 度) 跳び箱を使った運動遊びにすすんで取り組むことができるようにする。
- (思考・判断) 跳び箱を使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見付けることができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動・めあて	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導 入	1 学習内容の確認 ・学習の流れとめあてを確認する。	○本時の流れとめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。	
	2 準備運動	○手首や足首を中心に、一つ一つの部位を意識して伸ばすように言葉掛けをする。	
	3 主運動につながる動きを身に付ける時間 ・かえるの足うち ・動物歩き ・うさぎ跳び ・馬跳び	○主運動につながる動きを意識できるよう言葉掛けをする。	
	4 場の準備	○用具を持ち運ぶ際には、安全に気を付け、協力して取り組むよう助言をする。	

展開	<p>5 取り組む時間①（事前選択） 四つの場から事前に選んだ二つの場で、運動遊びを行う。 【四つの場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平場 ・連結跳び箱の場 ・段差跳び箱の場 ・舞台の場 <p>6 振り返り</p> <p>7 取り組む時間②（事前選択）</p>	<p>○マットがずれていたら直すことなど安全に十分配慮するように言葉掛けをする。</p> <p>○遊び方を工夫できるような用具（ケンステップなど）を用意する。</p> <p>○遊び方を工夫している児童を紹介し、よい動きを共有できるようにする。</p> <p>○友達のよい動きを見付け、まねをしたり、友達に伝えたりしている児童を称賛する。</p>	<p>アー① 跳び箱を使った運動遊びにすすんで取り組もうとしている。 (観察)</p>
まとめ	<p>8 整理運動</p> <p>9 場の片付け</p> <p>10 振り返り</p>	<p>○よく使った部位をほぐすように言葉掛けをする。</p> <p>○友達と声を掛け合い、安全に十分気を付けながら場の片付けをするように言葉掛けをする。</p> <p>○友達のよい動きを見付けることができたかを中心に振り返らせる。</p>	<p>イー③ 跳び箱を使った運動遊びのなかで、友達のよい動きを見付けている。 (観察・学習カード)</p>